

第 2 回 上流遊水地群地内利活用検討会

第 1 ～ 4 回作業部会の開催概要

目 次

1. 第1回作業部会	第1回検討会の実施状況と今後の進め方について・・・1
2. 第2回作業部会	地内利活用検討に当たっての情報共有及び利活用のアイデア検討について・・・4
3. 第3、4回作業部会	実現性、持続可能性、地域振興、維持管理等を踏まえたアイデア検討について・・・8

令和 7 年 2 月 1 9 日

東北地方整備局 福島河川国道事務所

福島県

鏡石町・矢吹町・玉川村

阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会 第1回作業部会 開催概要

開催概要

日 時：2024年3月25日（月）10時～12時
場 所：鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）
参加人数：鏡石町22名、矢吹町22名、玉川村21名

- 第1部 全体会議：検討会の実施状況、遊水地整備の概要、上流遊水地群の地内利活用検討の進め方、意向調査の実施について説明・質疑等
- 第2部 ワークショップ：3町村別に意見交換



【第1部の様子】

質疑応答内容

全体

- ・利活用について、河川法第24条、第26条に基づく許可基準に基づく仕分け内容は配布してもらえるのか。
⇒後日確認する。
- ・意向調査は事業を知ってもらうためとあるが、下流域に対しては行わないのか。
⇒調査は資料の通り。下流域に対してはパネル展などを通じてアンケートなどの対応を検討していく。
- ・1月30日に検討会で出た内容の回答はあるか。企業に対して事業性を聞く質問があるが、設計などのデータは公開しないのか。
⇒検討会で出た内容は今後検討していく。また、遊水地の設計資料は検討中の内容であり、企業からの申し出があった場合は調整したい。

- ・事例集の事例では維持管理はできているか。特徴的な事例で良いので、参考として教えてほしい。
 - ⇒事例集は様々な利活用事例をまとめたものである。維持管理についても記載している。今後の部会で取り上げていきたい。
- ・十年に一度かん水させるとのことであるが、強制的に入れるのか。
 - ⇒強制的ではない。川の水位が上昇したとき越流堤から水が入る。
- ・越流するということであれば、泥だらけになるイメージである。
 - ⇒泥だらけになるが、十年に一度と低い頻度のため、利活用している自治体もある。
- ・越流堤の高さは、現況の堤防高に対してどの程度の高さか。また、越流後の土砂の撤去などの対応は、遊水地の占有者が行うのか。
 - ⇒越流堤の高さは、現況の堤防より低い。が、堤防位置をずらすため、川幅が広がる。堆積土砂に関しては、国で災害復旧の制度がある。
- ・堆積土砂について災害レベルにより撤去されないのであれば、占有者は使い続けるのが難しい状況となる。制度が活用できない場合の対応についても教えてほしい。
 - ⇒示せる範囲で示していく。
- ・成田地区で水田を設けたいと考えている人はどの程度いるのか。2019年に水田に土砂が入った際に、雑草の処理に4年かかった。一概に水田にすることは望ましくないと思う。
 - ⇒制度上水田利用が可能となったが、まだ事例等はない。また、利用意向については今後確認する必要がある。水田利用も選択肢の一つとして今後検討していきたい。
- ・浜尾遊水地の活用は効果的な活用といえるか。
 - ⇒ラジコン飛行場等で活用されているが、賑わいの創出などはされていない。



【鏡石町の第2部の様子】

矢吹町 質疑応答

- ・阿武隈川流域全ての市町村の首長からご意見をいただけるような組織をつくってもよいのではないかと。
⇒意見は伺った。
- ・阿武隈川流域の市町村と協力して基金を設置してはいかがかと。
⇒関係機関の関わり方がわからないため現時点で明確な回答は難しい。



【矢吹町の第2部の様子】

玉川村 質疑応答

- ・事例集に記載してある場所の視察は予定しているのか。
⇒既に実施しており、今後も実施していきたい。
- ・3町村でダブってはならない。遊水地で工業団地を作ってはならないのか。
⇒建物は基本的に難しい。ピロティ方式では金額が高くなってしまう。沖館川では公共施設がピロティ方式により免許センターが設置されているが掘削を行わない場所であった。民間側で整備する可能性は0ではない。3つの町村でバランスをとることが考えられるが、今後の課題としたい。
- ・遊水地単体では難しくかわまちを含め全体で考えたい。また、村では民間との協定を結ぶ取り組みを進めており、民間の資金、投資を促すよう考えないといけない。
- ・遊水地内を荒れ地としたりたくない。村として整備する可能性もありながら、国・県でも利活用を検討してもらい、持続可能な形を描きたい。



【玉川村の第2部の様子】

阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会 第2回作業部会 開催概要

開催概要

日時：2024年8月27日（火）13：30～16：00
場所：鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）
参加人数：鏡石町20名、矢吹町21名、玉川村16名



【第2部ワークショップ全体の様子】

- 第1部 全体会議（情報共有）：住民・企業意向調査の結果、施設の整備・維持管理費事例、地内および周辺施設に対する支援制度、法制度上の制限・条件等
- 第2部 ワークショップ：3町村に分かれそれぞれ利活用に関する具体的なアイデアを出しあう

〈ワークショップにおけるアイデア出しの流れ〉

①オリエンテーション	話し合いの進め方や時間配分、留意事項に関するオリエンテーション
②パチャクチャタイム	3人1組に分かれ第1部での情報提供等に対する感想・意見を共有
③利活用のアイデアを考える	4人1組に分かれ利活用のイメージを出し合う グループで1, 2個のアイデアを紙に書き出す
④アイデア発表・意見交換	書いた紙を貼り出しながらグループごとに発表 貼り出された紙を見ながら「持続可能性」「地域振興」の視点で4人1組で意見交換
⑤ベスト3選定	1人4票持ち重みづけ(4票の投票方法については各自の自由)をしながら投票
⑥チェックアウト	4人1組に分かれ本日の感想等を共有する



【鏡石町グループワークの様子】

提案アイデア（カッコ内は記録者による補足）

- 企業が農地として企業及び地域のために整備する（11票） 1位**
 - ・行政から手を離れた方が維持管理が楽になる。
 - ・麦畑を作って、ビールが好きなので近くで飲みたい。
 - ・ビールを森林公園で出す（提供する）。
- 町民、県外の人がドックランやスケボーをする公園（複合型施設）（10票） 2位**
 - ・ビールと連携させるのがいい。持続可能性の観点では企業がよく、新しい視点で県内外のひとに来ていただく。今までに町にないもの（であるためよい）。
 - ・ドックランはランニングコストが掛からない。草を刈ればいいので。
- 町内外の方々が四季折々の花を楽しめる花畑（なたねや季節の花）（10票） 2位**
 - ・一面の菜の花畑があると、観光にもいい。
- 国が国立公園として地域(国民)のために整備する総合公園（9票） 3位**
 - ・国だと絶対潰れないので持続可能なという意味で一番現実的。
 - ・国が整備してもらえれば、（他の提案も国により）すべて（実現）できる。直営でやってほしい。
- 町民が岩農生と一緒に農業体験する市民農園（9票） 3位**
 - ・（遊水地と岩瀬農業高校が）直線距離で3 kmくらいにあるので、市民と触れ合うことができるひとつの場所になる。
- 県民がボートや釣りなどをする親水公園（9票） 3位**
 - ・水があれば草刈りがいらぬ。ボートがあればひとが集まる。
- 農家（町内外企業）に水田（畑、ビール用麦畑等）として貸し出す（8票）
- 町内外の人が来る。癒される！森林公園（6票）
- 企業が営利活動としてソーラーパネルを設置する（5票）
- 地域住民及び県内・県外より鏡石町に行きたくなるような大きな田んぼアートに取り組む（2票）

提案アイデア（カッコ内は記録者による補足）

○国が自衛隊の訓練施設として活用する（14票） **1位**

- ・自衛隊誘致により地元自治体には国から補助金が期待できる。

○町内外の人が多目的に活用できる駐車場付き多目的広場（災害時の避難スペース）として活用する（13票） **2位**

- ・モータースポーツやフェス会場としても活用でき、一部舗装することで駐車場としても活用できる。
- ・一部緑地公園とし散策等楽しめるようにする。

○町内外・外国の方が散策できる国立公園として活用する（12票） **3位**

- ・ひたちなか海浜公園を目指す（桜やつつじを植える、古民家・公式のソフトボール球場設置）。

○再生エネルギーの拠点として太陽光パネルを設置し電力の地産地消（水素エネルギー）として活用する（11票）

○町民が利用できる多目的グラウンドとして活用する（9票）

○国が研究等の施設として活用する（6票）

○車好きが「レース」をするサーキット場として活用する（4票）

○愛好家が利用できるダートコース・オフロードコース（車とか）として活用する（4票）

○県内の農業高校生が1年草のアート大会を開催する場として活用する（4票）

- ・高校生が参加することで遊水地について知ってもらう機会となる。

○町内外の方が散策等を楽しめる緑地公園（スケールの大きな運動公園）として活用する（1票）

○国が農業試験場として活用する（1票）

○町内外の人が3地区を全て使用しイベント会社が利用しやすいように整備する（1票）

○経営拡大を考えている農家へ農地として（貸し出す）（1票）



【矢吹町グループワークの様子】

提案アイデア（カッコ内は記録者による補足）

○玉川村が占用し緑地・都市公園とし一部にフロートソーラー施設として活用する（8票）**1位**

- ・売電事業を行い、収益をあげる。
- ・三町村で出資し、会社を設立する。

○地形を利用してバギー等（自転車、スケボー、ランニング）の練習レースコースとする
アクティビティとして活用する（8票）**1位**

- ・維持管理が楽であり、少しの修繕で利用可能になる。
- ・“自転車の村”を活用する。

○畜産農家が牛を放牧する牧草地として活用する（6票）**2位**

○県内外の方が、マラソンやサイクリングをするコースとして周囲堤を活用する（6票）**2位**

- ・玉川村＝自転車のイメージを利用する。

○農業生産者が養蜂や野菜サブスクなどの収益事業をする農業ビジネスの場として活用する（5票）**3位**

○村民、観光客が花畑(季節ごと)として活用する（5票）**3位**

○地内すべてをコンクリート化する（5票）**3位**

○村内外、県外の方がイベント利用や駐車できる施設として活用する（4票）

○玉川村が子供が遊ぶミニ公園（最小限）として活用する（3票）

○村内外の人が社会教育、社会体育施設として利用するグラウンドや体験農園として活用する（2票）

- ・部活の場として活用してもらい地域移行支援を促す。
- ・離農を防ぎ、農業の持続につながる。

○子育て世代（子供）が遊べる遊具施設として活用する（1票）

○地元にはボートピアがあるため、ボートレース場として活用する（観客席は浮きドッグ式）（1票）

○学生や愛好者が自転車やマラソンをするコースとして活用する（1票）



【玉川村グループワークの様子】

阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会 第3、4回作業部会 開催概要

開催概要（第3回作業部会）

- 日時：2024年10月7日（月）9：30～12：00
- 場所：鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）
- 参加人数：鏡石町18名、矢吹町18名、玉川村15名
- 第1部 作業部会別意見交換：資料説明、第2回作業部会の振り返り
- 第2部 全体発表：部会別意見の発表、今後の予定確認



【第2部 全体発表の様子】

開催概要（第4回作業部会）

- 日時：2024年12月3日（火）13：30～15：30
- 場所：矢吹町複合施設KOKOTTO（1階KOKOTTOホール）
- 参加人数：矢吹町18名
- 作業部会別意見交換

〈ワークショップにおける意見交換の流れ〉

①オリエンテーション	話し合いの進め方や時間配分、留意事項に関するオリエンテーション
②事業主体の確認	事業主体を踏まえた実現性の確認
③ペチャクチャタイム	3人1組に分かれ今までの時間に対する感想・意見を共有
④利活用のねらい、効果を考える	4人1組になり、各方向性、アイデアのねらい、効果について話し合う
⑤導入すべき機能や施設を考える	各方向性、ねらいや効果を実現するために必要なものについて話し合う
⑥本当に大切なことを考える	グループごとに地域にとって本当に必要なこと、期待することは何かを話し合う
⑦方向性を明確化する	グループごとに方向性(テーマ)、目指すべきこと(ねらい)、期待する効果、必要なもの・こと(広さ、施設、設備、協力など)について1案整理する
⑧全体で共有し、統合する	グループごとに整理した方向性について、部会の総意としてとりまとめる

鏡石町 検討会への報告内容

- 地域活性化のため、収益性、持続性があり大規模な利活用をするため企業がソーラーパネルを設置する。
- 地域の雇用創出のために民間企業を活用し農地として整備してもらう。
- 地域の活性化や交流人口増加のためにBBQやスケートボード・ドッグラン等ができる複合施設として整備する。
- 地域の交流人口増加や健康づくりのために町内外の方がサイクリングや散策等を楽しめる公園を整備する。
(効果を実感できる施設、防災性向上に寄与する施設)



【鏡石町グループワークの様子】

矢吹町 検討会への報告内容

- ソーラーパネルを設置し、脱炭素・地球温暖化対策を図る。
- 企業・大規模農家の農地利用で、農業生産の維持・拡大を図り、農地の荒廃を防止する。
- マラソンコースやサイクリングコースとして、住民の健康増進を図る多目的広場を整備する。
- 住民の交流を目的とし、災害時の避難スペースとしても活用できる多目的広場を整備する。
- 企業の利用などにより、交流人口増加を目的としたイベント広場を整備する。
- 遊水地に関する教育施設を設置し、地域および流域全体に治水対策を発信することで防災意識を向上させる。
- 農業試験場を整備し、野菜・果樹をブランド化し、地域の経済活性化を図る。
- 観光地化による集客を目的とした大規模な菜の花畑の公園を整備する。
- 観光のインバウンド化による地域の経済活性化を目的とした国営公園を整備する。



【矢吹町グループワークの様子】

玉川村 検討会への報告内容

- 良好な景観を維持し収益性を確保するために民間の農地として整備してもらう。
- 畜産農家が良質な飼料による食味アップ、コストの節約のため牧草地として整備する。
- 人口交流・自然に親しむため村民・観光客が花畑を作る。
- 地域活力の増、地域商業施設の売上向上のため周囲堤をマラソン・サイクリングコース・バギー等の練習・レースコースに活用する。
- 健康作りのため玉川村が占用し緑地・都市公園とする。
- 子供から大人まで使用でき交流人口増加のためにソフトボールや散歩ができる公園・運動施設を整備する。
また、維持管理費を売電収入で確保するためフロードソーラーを事業者整備してもらう。



【玉川村グループワークの様子】